

4・1 微生物科

4・1・1 昭和57年度伝染病流行予測調査事業

この事業は、厚生省委託事業（インフルエンザ感染源調査、日本脳炎感染源調査）、単県行政委託調査（風疹、麻疹、インフルエンザ抗体保有調査）に区分され、さらに当研究所で独自にこれらの上乗せ調査を行った。調査の内容、目的が共通するものであり、これらの調査成績ならびに要旨をここにまとめた。また、当研究所窓口受託及び鳥取県健康対策協議会依頼による看護学生の風疹HI抗体検査成績をあわせて記載した。

(1) インフルエンザ感染源調査

本年度、県下の保育園、学校から報告されたインフルエンザ様患者数の累計は935名で昨年度の約1/10であった。集団発生の3校17名、医療機関受診の77名計94名の患者について行ったウイルス分離と、うち21名について行った血清診断の成績は表1に示すとおりである。94名中55名からインフルエンザA(H₃N₂)型が分離され、21名中12名に同型ウイルス抗原に対する抗体価の上昇が有意に認められた。

表1 インフルエンザ様患者のウイルス分離と血清診断

調査年月	調査施設	調査人員	血清診断						ウイルス分離 分離数 検体数	分離 ウイルス型
			A(H ₃ N ₂)型			A(H ₁ N ₁)型		B型		
			A/ 新潟/ 101/81	A/Ban- gkok/ 1/79	A/ 鳥取/ 1/83	A/ 熊本/ 37/79	A/ NJ/ 8/76	B/Sing- apore/ 222/79		
58.1	米子工業高等学校	5	3/5	3/5	3/5	0/5	0/5	0/5	1/5	A(H ₃ N ₂)
58.1	医療機関	29							23/29	A(H ₃ N ₂)
58.2	湖南小学校	7	5/7	5/7	5/7	0/7	0/7	0/7	3/7	A(H ₃ N ₂)
58.2	世紀小学校	5	3/5	2/5	3/5	0/5	0/5	0/5	4/5	A(H ₃ N ₂)
58.2	医療機関	48	1/4	1/4	1/4	0/4	0/4	0/4	24/48	A(H ₃ N ₂)
	計	94	12/21	11/21	12/21	0/21	0/21	0/21	55/94	A(H ₃ N ₂) 55

血清診断：急性期血清抗体価に対し、回復期血清抗体価が4倍以上上昇したものを陽生とした。

(2) インフルエンザHI抗体保有状況

7月～10月の期間に県下5保健所管内で採血した一般健康者445の血清について、A/熊本/37/79、A/USSR/92/77、A/足立/2/57、A/Bangkok/1/79、A/新潟/102/81、A/NJ/8/76、B/Singapore/222/79の7抗原に対するHI抗体保有状況を調査した。成績は表2-1

～7に示すとおりである。抗体価32以上の陽性率について昨年度と比較すると、A/熊本/37/79で17%、A/Bangkok/1/79で22%、B/Singapore/222/79で29%夫々高くなっており、HI抗体価32倍以上保有者の平均抗体価も同じく高くなっている。本県における昨年度の流行はB型によるものであったが、多少その影響といえなくもない。抗体価32以上の抗体保有率をA/足立/2/37についてみると、20才未満では殆んど0%、20才代で約70%、30～50才代で90%以上であり、同じくA/NJ/3/76については50才代以下各年齢層とも0%に近い。このことは、本県においてもA(H₂N₂)型インフルエンザは20数年来、A(H_{sw}N₁)型インフルエンザは60年来流行がなかったことを示している。

表2-1 A/熊本/37/79(H₁N₁)抗体保有状況

年齢階層 (才)	調査 人員	HI 抗体 価						32 ≤ 平均抗体価
		<32	32	64	128	256	512	
4～9	60	13 (21.7)	4 (6.7)	17 (28.3)	16 (26.7)	9 (15.0)	1 (1.6)	26.70
10～19	283	19 (6.7)	21 (7.4)	46 (16.3)	104 (36.7)	78 (27.6)	15 (5.3)	27.08
20～29	40	11 (27.5)	4 (10.0)	5 (12.5)	14 (35.0)	6 (15.0)		26.76
30～39	32	10 (31.3)	10 (31.3)	8 (25.0)	1 (3.1)	2 (6.2)	1 (3.1)	25.91
40～49	22	10 (45.5)	2 (9.0)	8 (36.6)	1 (4.5)	1 (4.5)	1	26.08
50～59	9	9 (100.0)						
計	446	72 (16.2)	41 (9.2)	84 (18.8)	136 (30.5)	96 (21.5)	17 (3.8)	26.48

()内は%

表2-2 A/USSR/92/77(H₁N₁)抗体保有状況

年齢階層 (才)	調査 人員	HI 抗体 価						32 ≤ 平均抗体価
		<32	32	64	128	256	512	
4～9	60	18 (30.0)	7 (11.7)	22 (36.7)	11 (18.3)	2 (3.3)		26.19
10～19	283	28 (9.9)	34 (12.0)	56 (19.8)	80 (28.3)	75 (26.5)	10 (3.5)	26.94
20～29	40	14 (35.0)	3 (7.5)	6 (15.0)	4 (10.0)	10 (25.0)	3 (7.5)	27.19
30～39	32	20 (62.5)	5 (15.6)	3 (9.4)	4 (12.5)			25.92
40～49	22	11 (50.0)	7 (31.8)	2 (9.0)	1 (4.5)	1 (4.5)		25.64
50～59	9	9 (100.0)						
計	446	100 (22.4)	56 (12.6)	89 (20.0)	100 (22.4)	88 (19.7)	13 (2.9)	26.75

()内は%

表 2-3 A/足立/1/57 (H₂N₂) 抗体保有状況

年齢階層 (才)	調査 人員	HI 抗体価						32 ≤ 平均抗体価
		<32	32	64	128	256	512	
4 ~ 9	60	60 (100.0)						
10 ~ 19	283	280 (98.9)	2 (0.7)	1 (0.4)				2 ^{5.33}
20 ~ 29	40	11 (27.5)	9 (22.5)	13 (32.5)	6 (15.0)	1 (2.5)		2 ^{5.97}
30 ~ 39	32	2 (6.3)	4 (12.4)	11 (34.4)	9 (28.1)	6 (18.7)		2 ^{5.57}
40 ~ 49	22	1 (4.6)	3 (13.6)	9 (40.9)	7 (31.8)	2 (9.1)		2 ^{6.38}
50 ~ 59	9		4 (44.4)	1 (11.2)	4 (44.4)			2 ^{6.00}
計	446	354 (79.4)	22 (4.9)	35 (7.9)	26 (5.8)	9 (2.0)		2 ^{6.24}

()内は%

表 2-4 A/Bangkok/1/79 (H₃N₂) 抗体保有状況

年齢階層 (才)	調査 人員	HI 抗体価						32 ≤ 平均抗体価
		<32	32	64	128	256	512	
4 ~ 9	60	12 (20.0)	7 (11.7)	5 (8.3)	24 (40.0)	11 (18.3)	1 (1.7)	2 ^{6.88}
10 ~ 19	283	15 (5.8)	58 (20.5)	104 (36.7)	71 (25.1)	29 (10.3)	6 (2.1)	2 ^{6.34}
20 ~ 29	40	10 (25.0)	14 (35.0)	9 (22.5)	5 (12.5)	2 (5.0)		2 ^{5.83}
30 ~ 39	32	22 (68.7)	7 (21.9)	3 (9.4)				2 ^{5.30}
40 ~ 49	22	12 (54.6)	4 (18.2)	3 (13.7)	1 (4.5)	1 (4.5)	1 (4.5)	2 ^{6.20}
50 ~ 59	9	8 (88.9)	1 (11.1)					2 ^{5.00}
計	446	79 (17.7)	91 (20.4)	124 (27.8)	101 (22.6)	43 (9.7)	8 (1.8)	2 ^{6.33}

()内は%

表 2-5 A/新潟/102/81(H₃N₂) 抗体保有状況

年齢階層 (才)	調査 人員	HI 抗体価						32 ≤ 平均抗体価
		<32	32	64	128	256	512	
4 ~ 9	60	27 (45.5)	18 (30.0)	10 (16.7)	4 (6.6)	1 (1.7)		2 ^{5.63}
10 ~ 19	283	169 (59.7)	70 (24.7)	38 (13.4)	6 (2.2)			2 ^{5.43}
20 ~ 29	40	32 (80.0)	5 (12.5)	3 (7.5)				2 ^{5.38}
30 ~ 39	32	19 (59.4)	7 (21.9)	5 (15.6)		1 (3.1)		2 ^{5.61}
40 ~ 49	22	10 (45.6)	4 (18.4)	4 (18.4)	2 (9.0)	2 (9.0)		2 ^{6.17}
50 ~ 59	9	9 (100.0)						
計	446	266 (59.6)	104 (23.4)	60 (13.5)	12 (2.7)	4 (1.0)		2 ^{5.53}

()内は%

表 2-6 A/NJ/8/76(H_{sw}1N₁) 抗体保有状況

年齢階層 (才)	調査 人員	HI 抗体価						32 ≤ 平均抗体価
		<32	32	64	128	256	512	
4 ~ 9	60	59 (98.3)	1 (1.7)					2 ^{5.00}
10 ~ 19	283	278 (98.2)	2 (0.7)	2 (0.7)	1 (0.4)			2 ^{5.80}
20 ~ 29	40	40 (100.0)						
30 ~ 39	32	32 (100.0)						
40 ~ 49	22	22 (100.0)						
50 ~ 59	9	9 (100.0)						
計	446	440 (98.7)	3 (0.7)	2 (0.4)	1 (0.2)			2 ^{5.67}

()内は%

表 2-7 B/Singapore/222/79 抗体保有状況 (%)

年齢階層 (才)	調査 人員	HI 抗 体 価						32 ≤ 平均抗体価
		<32	32	64	128	256	512 ≤	
4 ~ 9	60	6 (10.0)	11 (18.3)	18 (30.0)	18 (30.0)	4 (6.4)	3 (5.0)	2 ^{6.44}
10 ~ 19	283	17 (6.0)	42 (14.8)	94 (33.3)	96 (33.9)	25 (8.8)	9 (3.2)	2 ^{6.50}
20 ~ 29	40	11 (27.5)	9 (22.5)	9 (22.5)	9 (22.5)	2 (5.0)		2 ^{6.14}
30 ~ 39	32	22 (68.8)	8 (25.0)		2 (6.2)			2 ^{5.40}
40 ~ 49	22	13 (59.1)	5 (22.7)	2 (9.1)	2 (9.1)			2 ^{5.67}
50 ~ 59	9	8 (88.9)		1 (11.1)				2 ^{6.00}
計	446	77 (17.3)	75 (16.8)	124 (27.8)	127 (28.5)	31 (7.0)	12 (2.6)	2 ^{6.41}

(3) 日本脳炎感染源調査

7月上旬から9月中旬までの8旬、各旬1回20頭生後5~8ヶ月の豚について、日本脳炎HI抗体保有状況を調査した。成績は表3に示すとおりである。7月下旬75%の陽性率を示したが、いずれも抗体価は20倍以下の低値で、8月上旬は0%、8月中旬35%の時期から抗体価40倍以上のものが多くなり、8月下旬85%の陽性率となった。この時点において本県も日本脳炎汚染地区となったが、患者は疑似を含めて1名も発生しなかった。

表 3 豚日本脳炎HI抗体保有状況

採血月日	検査 数	HI 抗 体 価								抗体 保有 率 (%)	2ME感 受性抗体 保有率 (%)	飼育地別抗体保有状況 保有豚数 検査豚数	
		<10	10	20	40	80	160	320	640				
7月 5日	20	17	2	1						15	100	大山町 1/10	大栄町 0/10
7月14日	20	13	5	1	1					35	0	赤碓町 2/10	倉吉市 5/10
7月28日	20	5	10	5						75	100	倉吉市 7/10	米子市 8/10
8月 6日	20	20								0	-	倉吉市 0/10	名和町 0/10
8月11日	20	13	1			1	1	3	1	35	100	倉吉市 5/10	米子市 2/10
8月25日	20	3	4	2		1	6	2	2	85	40	関金町 9/10	西伯町 8/10
9月 6日	20	4			1	2	8	5		80	70	大栄町 7/10	米子市 9/10
9月13日	20				1	1	4	12	2	100	37	淀江町 10/10	大山町 10/10

(4) 風疹HI抗体保有状況調査

1) 年齢階層別抗体保有状況

7月～10月の期間に、県下5保健所管内で採血した一般健康者447名について、風疹HI抗体価を測定した。年齢階層別抗体保有状況は表4に示すとおりである。10～14才の抗体保有率は約60%と推察されるが、他の年齢層については調査数が少ないため推察できない。

表4 年齢階層別風疹HI抗体保有状況

(%)

年齢階層 (才)	調査 人員	HI 抗体 価								
		<8	8	16	32	64	128	256	512	1024 ≤
5 ~ 9	56	17 (33.3)				4 (7.8)	13 (25.5)	14 (27.5)	3 (5.9)	
10 ~ 14	285	117 (41.3)		1 (0.4)	5 (1.8)	23 (8.1)	56 (19.8)	53 (18.7)	23 (8.1)	5 (1.8)
15 ~ 19	10			1 (10.0)	1 (10.0)	1 (10.0)	4 (40.0)	1 (10.0)	2 (20.0)	
20 ~ 24	21	5 (23.8)			1 (4.8)	2 (9.5)	4 (19.0)	6 (28.6)	3 (14.3)	
25 ~ 29	19	8 (42.1)		2 (10.5)	3 (15.8)	4 (21.0)	1 (5.3)	1 (5.3)		
30 ~ 34	17		1 (5.9)	2 (11.8)	3 (17.6)	6 (35.3)	5 (29.4)			
35 ~ 39	15	1 (6.7)	1 (6.7)	2 (13.3)	2 (13.3)	6 (40.0)	2 (13.3)	1 (6.7)		
40 ~	31	2 (6.5)	1 (3.2)	2 (6.5)	8 (25.7)	11 (35.5)	5 (16.1)	2 (6.5)		
計	447	150 (33.6)	3 (0.7)	10 (2.2)	23 (5.1)	57 (12.8)	90 (20.1)	78 (17.5)	31 (6.9)	5 (1.1)

2) 窓口受託風疹HI抗体検査成績

本年度、当研究所窓口において受託した風疹HI抗体検査件数は3,957件で、検査成績は表5に示すとおりである。この中で20才から30才の女子3,096名の年齢別抗体保有率をみたのが表6である。全年令を通した抗体保有率は63.6%であるが、特に21才(44.4%)～24才(52.2%)は低率で、2人に1人は抗体を保有していない。この年齢は妊娠適令層であり、風疹感染に対する注意が必要である。

表5 昭和57年度窓口受託風疹HI抗体検査成績

(%)

検査件数	HI 抗体 価								
	<8	8	16	32	64	128	256	512	1024 ≤
3957	1,219 (32.8)	110 (2.8)	321 (8.1)	641 (16.2)	699 (17.7)	549 (13.9)	250 (6.3)	69 (1.7)	20 (0.5)

表6 年令別女子風疹HI抗体保有率(8≤)

年令(才)	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	計
保有者数 被検者数	50 82	67 151	97 193	154 297	176 337	280 427	293 443	214 344	239 302	173 249	135 211	1968 3096
保有率(%)	(60.1)	(44.4)	(50.3)	(51.9)	(52.2)	(65.6)	(66.1)	(62.2)	(79.1)	(69.5)	(64.0)	(63.6)

3) ワクチン接種・非接種年令群の風疹HI抗体保有状況

県健康対策協議会の依頼によって、県内8施設の看護学生を対象に風疹HI抗体価を測定した。1977年から中学校の女子を対象に風疹ワクチンの定期接種が行われているが、抗体検査を行った女子学生をワクチン接種年令群(1962年4月以降生)とワクチン非接種年令群(1962年3月以前生)に区分して、抗体保有状況を示したのが表7である。前者における抗体保有者が591名中562名(95.1%)に対し、後者においては225名中137名(53.7%)と両年令群の間に著明な差がある。被検者個々についてのワクチン接種、非接種の確認は十分でないが、この抗体保有率の差はワクチン接種によるものと推定される。

表7 ワクチン接種・非接種年令群風疹HI抗体保有状況(看護学校女子学生) (%)

区 分	調 査 人 員	HI 抗 体 価								
		< 8	8	16	32	64	128	256	512	1024 ≤
非 接 種 年 令 群	255	118 (46.3)		5 (2.0)	16 (6.3)	50 (19.6)	41 (16.1)	18 (7.0)	7 (2.7)	
接 種 年 令 群	591	29 (4.9)	4 (0.7)	38 (6.4)	141 (23.9)	157 (26.6)	146 (24.7)	60 (10.2)	15 (2.5)	1 (0.5)

(5) 麻疹HI抗体保有状況

7月～10月に採血した保育園児46名、小学校児童64名、中学校生徒49名の麻疹に対するHI抗体保有状況は表8に示すとおりであった。

表8 麻疹HI抗体保有状況 (%)

区 分	調 査 人 員	HI 抗 体 価							
		< 8	8	16	32	64	128	256	512
園 児	46	4 (8.7)	7 (15.2)	11 (25.9)	9 (19.6)	7 (15.2)	7 (15.2)	1 (2.2)	
小 学 生	64	6 (9.4)	11 (17.2)	19 (29.7)	11 (17.2)	6 (9.4)	8 (12.5)	2 (3.1)	1 (1.5)
中 学 生	49	6 (12.2)	12 (24.5)	10 (20.4)	11 (22.5)	7 (14.3)	3 (6.1)		
計	159	16 (10.0)	30 (18.7)	40 (25.2)	31 (19.5)	20 (12.6)	18 (11.3)	3 (1.9)	1 (0.6)

4・1・2 食中毒原因物質調査

昭和57年の鳥取県における食中毒発生状況は表8に示すとおりである。前年比で発生例数は8事例減少して3事例、患者数は逆に27名増加している。表9No.2事例における患者数303名は大規模の発生であるが、年間3事例に止った発生事例数は、例年に比較してきわめて少ない発生といえる。なお当研究所で行ったこの期間における食中毒検査事例は、8事例312検体で、3事例が黄色ぶどう球菌、2事例が腸炎ビブリオによることが判明した。

表9 昭和57年食中毒発生状況

No.	発生場所	摂食者数	患者数	死者数	原因食品	原因物質	原因施設	摂取場所	調理場所
1	西伯郡西伯町法勝寺	14	8	0	おにぎり	黄色ぶどう球菌	公民館調理場	小学校体育館	公民館調理場
2	米子市、境港市	448	303	0	さごし照焼白菜	腸炎ビブリオ	弁当屋	その他	弁当屋
3	倉吉市	43	12	0	不明	腸炎ビブリオ	不明	不明	不明

4・1・3 畜水産物中の残留抗生物質検査

鶏肉、豚肉、牛肉、魚肉、牛乳計200検体について、クロルテトラサイクレン、オキシテトラサイクリン、クロラムフェニコール、ジヒドロストレプトマイシンの4剤を対象として、残留抗生物質の検査を行った。成績は表10に示すように残留抗生物質は検出されなかった。

表10 畜水産物中の残留抗生物質検査

検査目的	鶏肉	豚肉	牛肉	魚肉	牛乳	計
クロルテトラサイクリン	0/16	0/12	0/12	0/5	0/5	0/50
オキシテトラサイクリン	0/16	0/12	0/12	0/5	0/5	0/50
クロラムフェニコール	0/16	0/12	0/12	0/5	0/5	0/50
ジヒドロストレプトマイシン	0/16	0/12	0/12	0/5	0/5	0/50
計	0/64	0/48	0/48	0/20	0/20	0/200

陽性数/検体数

4・1・4 サルモネラ・腸炎ビブリオ血清型

本年度、当研究所で取扱ったサルモネラ、腸炎ビブリオの血清型は、表11に示すとおりである。

表11 サルモネラ、腸炎ビブリオ血清型

サルモネラ		腸炎ビブリオ	
血清型	件数	血清型	件数
S. paratyphi B d-tartrate+ (B)	1(1)	O ₂ :K 28	1(1)
S. sofia (B)	1(1)	O ₃ :K 29	3(2)
S. typhimurium (B)	1(1)	O ₃ :K 33	1(1)
S. bareilly (C ₁)	2(2)	O ₄ :K 63	14
S. tennessee (C ₁)	2(2)	O ₄ :K 4	1
S. thompson (C ₁)	1(1)	O ₄ :K 34	3(3)
S. manhattan (C ₂)	3(2)	?	1(1)
S. blockley (C ₂)	1		
S. muenchen (C ₂)	2(2)		
S. mendoza (D ₁)	1(1)		
S. senftenberg (E ₄)	1(1)		
S. ? (G)	1(1)		
S. cerro (K)	1(1)		
Total	18(16)	Total	24(8)

()内は人以外再掲

4・1・5 梅毒血清検査

本年度の窓口受託件数は2,343件で、前年度より132件多い。STS 3法委託が最も多く1,339件、STS 2法が695件で、STS 1法及びTPHA法の受託がともに約150件である。妊婦においてはSTS 1法のみ陽性が916件中12件(1.3%)で、STS 2法、3法ともに陽性者はなく、13件のTPHA法でも陽性例はなかった。一般においては、STS 1法以上の陽性者が1,284件中137件(10.7%)、TPHA法142件中27件(19.1%)であるが、他の検査機関からの陽性確認再検査や、陽性同一人の重複検査が含まれている。

表12 梅毒血清検査成績

区分	検査法	件数	陽性件数					計
			STS3法	STS2法	STS1法	TPHA法	FTA-ABS法	
妊婦	STS3法	485			9 (1.9)			9 (1.9)
	STS2法	418			3 (0.7)			3 (0.7)
	TPHA法	13						
	計	916			12 (1.3)			12 (1.3)
一般	STS3法	856	25 (2.9)	24 (2.8)	48 (5.6)			97 (11.3)
	STS2法	277		6 (2.1)	19 (6.9)			25 (9.0)
	STS1法	151			15 (9.9)			15 (9.9)
	TPHA法	142				27 (19.1)		27 (19.1)
	FTA-ABS法	1					1 (100.0)	1 (100.0)
	計	1,427	25 (1.8)	30 (2.1)	82 (5.8)	27 (1.9)	1 (0.1)	165 (11.6)
合計	2,343	25 (1.1)	30 (1.3)	94 (4.0)	27 (1.2)	1 (0.04)	177 (7.6)	

()内は%

4・1・6 ウイルス感染症のサーベイランス成績

昭和56年1月～12月の期間、県下6小児医療機関（鳥取市、倉吉市、米子市各2機関）を定点として、患者から採取された1,318検体についてウイルスの分離同定を行った。患者の臨床診断名とウイルス分離状況は表13-1、2に示すとおりである。1,318検体中379検体からウイルスが分離され、分離率は28.8%であった。被検者の臨床診断名は感昌を含む上気道炎が最も多く316検体、ついで流行を反映して風疹が170検体、インフルエンザ様疾患が105検体、手足口病が100検体であるが、全体では42の臨床診断症状名に及んでいる。腸重積の5例中4例（1例はワクチン服用によるポリオ1型）は例外として、インフルエンザ様患者（77.1%）、口内炎患者（71.8%）、風疹患者（64.2%）からの分離率が高く、手足口病患者（42.0%）、流行性耳下腺炎患者（34.2%）からの分離率も比較的高い。また例数が少ないが出血性膀胱炎、咽頭結膜炎の患者からの分離率がよかった。患者の病名、現症との直接的関連性の有無は別として、分離ウイルスの種類は未同定のものを除き24種類である。

表13-1 臨床診断別ウイルス分離状況(昭和57年1月~12月)

臨床診断名	上	風	イ	手	発	乳	ヘル	突	扁	口	流	そ	無	麻	下	喘	小		
	気	道	ン	足	疹	児	パ	発	桃	内	行	他	菌	下	気	息		計	
検	体	数	316	170	105	100	69	59	54	53	42	39	38	32	28	23	22	12	1,162
Coxsackie virus type A9	3	1																	4
Coxsackie virus type A16				35			1									1			37
Coxsackie virus type B3	3						3		2					2					10
Echo virus type 5	1																		1
Echo virus type 25	2									1									3
Echo virus type 30								1						4					5
Polio virus type 1	1																		1
Polio virus type 2	1																		1
Polio virus type 3																			
Enterovirus type 71				7															7
Mumps virus	1										13			2					16
Rubella virus		108																	108
Adenovirus type 1	6				2			3						1		1	1		14
Adenovirus type 2	3						1			1				1					6
Adenovirus type 3	3																		3
Adenovirus type 5	2																		2
Adenovirus type 6	1																		1
Adenovirus type 8	2																		2
Adenovirus type 11																			
Herpes simplex-not type	7				1		1		1	25							1		36
Influenza A (H ₃ N ₂)	1																1		2
Influenza B				81															81
Rota virus (R.PHA)							10												10
未同定	1				4					1									6
Total (%)	38	109	81	42	7	10	6	4	3	28	13		9	1	4	1			356
	(12.0)	(64.2)	(77.1)	(42.0)	(10.1)	(17.0)	(4.1)	(7.6)	(7.1)	(71.8)	(34.2)		(32.1)	(4.4)	(18.2)	(8.3)			(30.6)

第13-2 臨床診断別ウイルス分離状況(昭和57年1月~12月)

臨床診断名	仮	嘔	伝	M	水	溶	腸	腺	出	ヘル	咽	紫	そ	不	小	合
	性	吐	染	C	痘	連	重	窩	血	ペ	頭	斑	の	明		
検 体 数	12	10	10	9	8	6	5	5	5	5	5	4	36	36	156	1,318
分																
離																
ウ																
イ																
ル																
ス																
未																
同																
定																
Coxsackie virus type A9																4
Coxsackie virus type A16																37
Coxsackie virus type B3																10
Echo virus type 5																1
Echo virus type 25																3
Echo virus type 30																5
Polio virus type 1	1						1								2	3
Polio virus type 2																1
Polio virus type 3													1		1	1
Enterovirus type 71																7
Mumps virus													2		2	18
Rubella virus																
Adeno virus type 1							1								1	15
Adeno virus type 2							2		1		1		1		5	11
Adeno virus type 3																
Adeno virus type 5											1				1	3
Adeno virus type 6					1								1		2	3
Adeno virus type 8													1		1	3
Adeno virus type 11									1						1	1
Herpes simplex-not type								1		1				2	4	40
Influenza A (H ₃ N ₂)																2
Influenza B																81
Rota virus(R, PHA)													1		1	11
未 同 定	1														1	2
Total (%)	2 (16.7)			1 (12.5)		4 (80.0)	1 (20.0)	2 (40.0)	1 (20.0)	2 (40.0)	1 (20.0)	2 (40.0)	7 (19.4)	3 (8.3)	23 (14.7)	379 (28.8)